修学旅行 是非論の是非

深川恒喜

修学旅行のバスが衝突して多数の死傷者がでたーという事件があった。すると新聞の投書欄などにすぐ、危いから修学旅行はやめるべし、という意見がでた。それにおっかけて、自分の小さいときは今日のような修学旅行などしなかったものだ、ねむい目で名所旧跡をふらふらになってひきずりまわされて何が勉強になるか、旅行に行けない子は劣等感をもつ、みやげ物を買うために行くようなもので、こづかいとみやげものの分配でトラブルがよく起きる、みやげ物屋と旅行業者とをもうけさせているだけだーなどの意見も、あちこちで出たりもする。

するとまた、反論の投書がでて修学旅行の意義の讃美がいろいろと登場してくる。

○……

こういう論のしかたがわりに目だつ。そこでは、是と非との二つが、全か無かの発想でなされる。このイチかバチかの論法に油をそそいでいるのは、ジャーナリズムのとりあげ方にもあるようで、是非の論を全か無かの両極端に対立させた方が、話題として刺激的であり、おもしろくなるからでもあろう。ジャーナリズムには、こういういたずら根性があるものだ、ということがわかったら、このいたずらにあおられないで、じっくり、是と非とをみわたして立論する論法がでてこなくてはならない。が、事件が起ったとたんなどには、是か非で、カッとなってやりまくるのが案外多い。もっとも事故の当事者の立場になると、旅行などなければよかったのにーと思うのも、いかにもむりからぬことであろう。

○……

さて、この小文では、修学旅行の是非を論じようとするのではない。事件にぶつかった興奮の中での論に終らせないで、修学旅行その他、校外見学のしかたについてもっと、本格的な研究がでてこなくてはならないといいたいのである。

ただ、そういう本格派の論を待望しつつ、一二、気づくことをつけ加えたい。

その一つは「旅行」という概念につきまとう「ものみゆさん」や「いせまいり」式の考え方を払い落さねばならないということである。この種の考え方は、おとなのあたまにしみついているのではなかろうか。話題をはずれることになるが、ある種の浪花節や講談や落語が、こういう庶民的でかつ因襲的な考え方をはびこらせるうえに、なかなか大きい役割をしているようにわたくしには思える。ゲラゲラ笑って聞いているうちに、旅の恥はかきすて的な考えがしみこんでくる。

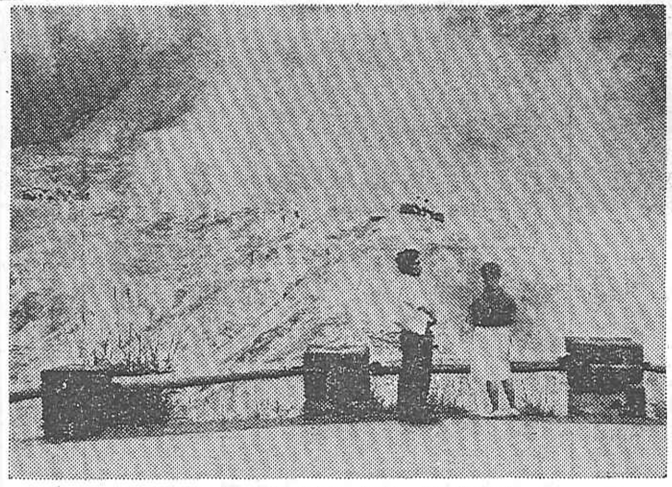
○……

ついては、義務教育学校の修学旅行の費用を、ある限度、税によってまかなうという制度ができぬものか。給食費や教科書の無償は順次実現されつつあるが、校外学習活動費の一部、とくに修学旅行の費用を、一定の限度をつくって国費支出にすべきではなかろうか。家庭の貧富の差で学習権の行使に格差をつけない制度をつくり上げるところまでいって、修学旅行もやっと教育上の本格的な意味づけをえることになる、と考えたいがどうであろう。

具体的には、在来の要保護児童に対する修学旅行費の補助というのではなく、全児童生徒への国庫負担をねらいにして、義務教育費国庫負担法の教材費のなかに「学習活動費」とでもいうべき費目を新設して、旅行見学などの校外学習費にあてる、むろん、校内学習の活動、運営費も含む、などの案が考えられよう。そこまでいってこそ「あたりまえ」と考えたい。自分の子どものころになかったものをどしどしつくっていくことに教育の進歩があるべきである。

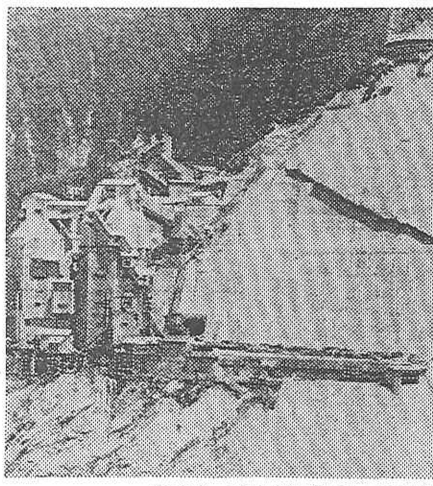
（東京学芸大学教授）

本年度研修旅行写真コンクール 入賞作品きまる



【推せん】登別にて　朝日　明（埼玉）

【特選】北海道への旅　高橋一夫（東京）



【特選】大自然に挑む　会田裕宣（大阪）

財団法人全修協主催、近畿日本ツーリスト株式会社後援の昭和四十一年度第十回研修旅行写真コンクールは応募作品総数三百二十五点に達した。十月十三日、審査委員会を開き厳正な審査を行なった結果、埼玉県川越市立古谷小学校朝日明教諭の「登別」が栄えある推せん作品に、また、特選としては大阪府八尾市立成法中学校の会田裕宣教諭の「大自然に挑む」と東京都目黒区立大岡山小学校高橋一夫教諭の「北海道への旅」がそれぞれ入賞、そのほか入選十名、佳作三十名を決定した。入賞者には賞状のほか賞金あるいは記念品がおくられる。総評および推せん、特選の短評と入賞者氏名は次の通り。（敬称略）

推せん作に朝日明氏

〔総評〕本年度は天候不順のため北海道、東北コースの応募作品がすくなかったことと、他コースも例年にくらべてすぐれた作品がすくなかったことの二点が目立った。なかでもピントの甘い作品が多く、これはネガの小さいことにもよるが、注意しなければならぬところであろう。作品のなかには意図の不明なものや、構図が大きすぎて〝ねらい〟を失なっているのも相当あった。とくに風景をとらえるときの心構えが必要だ。

人物を取り入れたばあい、写される人物がカメラを意識しているのもあり、非常に不自然となり勝ちだからこれも注意すべき点である。そのほか色調、仕上げ、引伸しの露出などの欠点が目立った。また、カラー作品は一般に色が悪かったようである。これらのなかで推せん、特選作品はさすがに力量のほどを示したものであった。

◇推せん（一名）賞状と賞金八千円

「登別にて」朝日明（埼玉県川越市立古谷小）

【評】しっかりとポイントをとらえている。遠景の山、点在する人物と近景の舗道、人物の対照はすばらしく、バランスのとれた画面である。

◇特選（二名）賞状と賞金各五千円

「大自然に挑む」会田裕宣（大阪府八尾市立成法中）

【評】コントラストのない被写体を取りあげることはなかなか難しいが、この作品はすべての困難を克服している。コンクリートの中央部を通る人物は、この雄大なダムの様相をよく表現しており、左方の工場は画面をひきしめている。コンクリート壁のヒダもはっきりあらわれ、質感を出している点がよい。

「北海道への旅」高橋一夫（東京都目黒区立大岡山小）

【評】自然光線をうまく利用した列車のなかのスナップとしては申し分なく、ただ上下の部分はカットしてもよかった。

◇入選（十名）賞状と賞金各千円

「クマを彫る」三橋実（山梨）「黒四ダム」斎藤チセ（北海道）「大歩危」春原とし（東京）「阿蘇大火口」田中信之（富山）「おみやげの品定め」森本明子（静岡）「くみを作る人」林まさ（大阪）「黒四についてほっと一息」酒井良一（岡山）「しっかり写してよ」戸田克哉（愛媛）「自然に挑む」疋田正雄（高知）「味覚のひととき」平岡操（福岡）

◇佳作（三十名）記念品

富樫理吉（山形）金塚安二（茨城）富田初美（埼玉）朝日明（埼玉）石井梓（埼玉）吉野てい子（埼玉）松本芳雄（群馬）高橋一夫（東京）上野広三郎（東京）中村初子（東京）滝沢正隆（東京）三橋直喜（山梨）三橋保子（山梨）斉木国薫（愛知）堀出平一（三重）岡光洋（三重）山中トク（奈良）会田裕宣（大阪）元木みね子（兵庫）小林馨（兵庫）小林とみ（兵庫）渡辺立子（岡山）酒井良一（岡山）松坂義雄（広島）表寛子（広島）柏木喜一（徳島）戸田克哉（愛媛）井手寿子（愛媛）西村正孝（愛媛）平岡操（福岡）

造園技術の粋

修学旅行のスポット

小石川・後楽園

★…美しい自然とすぐれた技法の結びつけによって人々は多くの造園芸術を完成したが、現在残る庭園のなかでもこの小石川後楽園は最高の地歩をしめるものといってよい。野球場、競輪場あるいは遊園地などに取りかこまれているが、この一廓だけはまったく世俗から遠くはなれ、ひっそりと晩秋のなかに息づいている。元陸軍の東京工廠の一角にあって、水戸徳川邸の後園のあと。

★…寛永六年に水戸頼房が起工そののち光圀が明朝の臣、朱舜水の意見をとりいれて作った江戸初期の代表的名園。約六万五千平方米の園内には洞庭湖や芦山のほか国内各地の名勝地の景観が写されている。特別史跡および特別名勝に指定。午前九時から午後四時三十分まで。入園料は団体（五十人以上）十二歳以上四十円、六歳以上十二歳未満十二円。東京都文京区後楽一ノ六。国電水道橋駅、都電小石川橋下車五分。

祝　財団法人　全国修学旅行研究協会　創立10周年

国語・美術の教科書出版
東京都品川区東大崎1―532　(491)2161(代)
光村図書出版株式会社

新しい時代の新しい教科書　開隆堂の教科書！
開隆堂
本社　東京都千代田区神田錦町3－18　電（東京）293－1811